

新潮文庫

散歩のとき
何か食べたくなつて

池波正太郎



新潮文庫

散歩のとき
何か食べたくなくて

池波正太郎著



新潮社版

2777

さん ぽ なに た
散歩のとき何か食べたくなって

新潮文庫

い - 16 - 10



昭和五十六年十月二十五日 発行
平成十五年四月十五日 三十九刷改版
平成二十年四月二十日 四十九刷

著 者 池 波 正 太 郎

発 行 者 佐 藤 隆 信

発 行 所 株式 会社 新 潮 社

郵便番号 一六二一八七一
東京都新宿区矢来町七一
編集部(〇三)三二六六―五四四〇
電話 読者係(〇三)三二六六―五一
<http://www.shinchosha.co.jp>

価格はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社読者係宛ご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

印刷・錦明印刷株式会社 製本・錦明印刷株式会社

© Toyoko Ikenami 1977 Printed in Japan

ISBN978-4-10-115610-1 C0195

目

次

銀座・資生堂パーラー	九
室町・はやし	三
神田・連雀町	四
三条木屋町・松鮎	四
外神田・花ぶさ	五
藪 二 店	七
大阪ところどころ	八
京都・寺町通り	九
横浜あちらこちら	一〇五
近江・招福楼	二七

渋谷と目黒	二六
京都・南座界限	二九
銀座界限	一四
信州とところどころ	一六
浅草の店々	一七
深川の二店	一八
名古屋懐旧	一五
京にある江戸	二〇
フランスへ行ったとき	二八
あとがき	三〇
索引	

解説 佐藤隆介

新 潮 文 庫

散 歩 の と き
何か食べたくなくて

池波正太郎著



新 潮 社 版

2777

目

次

銀座・資生堂パーラー	九
室町・はやし	三
神田・連雀町	三四
三条木屋町・松鮎	四
外神田・花ぶさ	五
藪 二 店	七
大阪ところどころ	八〇
京都・寺町通り	九
横浜あちらこちら	一〇五
近江・招福楼	一二七

渋谷と目黒	………	二六
京都・南座界限	………	二九
銀座界限	………	一四
信州とところどころ	………	一六
浅草の店々	………	一七
深川の二店	………	一八
名古屋懐旧	………	一五
京にある江戸	………	二七
フランスへ行ったとき	………	二八
あとがき	………	三〇
索引		

解説 佐藤隆介

散歩のとき何か食べたくなくて

銀座・資生堂パーラー

年齢をとるにしたがつて、懐旧の情が濃くなるという。

このごろ……。

週に何度か、これだけがたのしみで出かけて行く映画の試写を観終えてから、知らず知らず散歩の足が、生まれ育った浅草へ向くのをどうしようもない。

そして、また、去年あたりから、散歩の前後に何か食べたくなったとき、銀座の「資生堂」へ行くようになったのは、同じ理由なのかも知れない。

私が「資生堂」の洋食を口にしたのは、もう四十年前のことで、それから約八年ほどの間、この店の味に親しんだのち、銀座も資生堂も私たちも戦争に突入し、洋食どころのさわぎではなくなってしまった。

その戦前の味が、いまでも変わらずに厳然として存続していることは、戦前の銀座が、いまでも尚、味に残っていることなのだ。

資生堂パーラーのチーフは、四十六年間、このパーラーではたらいっている高石鏝之

助^{すけ}で、戦前の味を、

「数量的に、塩も胡椒^{こしょう}も、これだけのものにはこれだけと、厳密に決められていて、意識的に壊さぬようにしているのです」

ということだ。

戦後の三十年間、すべてが目まぐるしく変ったのに、ここの味だけが変らぬ。変らぬままに、戦前の繁栄をも持続している。

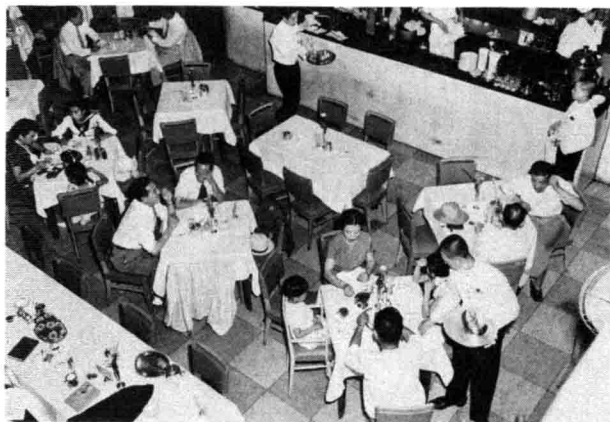
これは、まさに、

「持続の美德」

というものであるまいか。

もつとも私がいう資生堂の味とは、九階建のビルに変貌^{へんぼう}したこの店の七・八階を占めている同系のレストラン・ロオジエのことではない。一・三階のパラーのことだ。ロオジエはフランス料理を本格に出す高級レストランで、黒い前かけもまた本格的なソムリエがいてワインのリストを持って来る。フランス語が読めぬ私は、ほとんどロオジエへは行かない。

資生堂は、明治五年に洋風民間薬局として銀座に店舗をかまえ、しだいに、後年の化粧品メーカーとしての変身を見せはじめながら、明治三十五年にソーダ・ファウン



坊主刈りの“少年給仕”もなつかしい戦前の資生堂パーラー店内

テンを設け、ソーダ水とアイスクリームを売りはじめた。

これこそ、後のパーラーの前身だった。

少年の私が、はじめて資生堂パーラーへ食べに入ったときは、ネオ・ルネッサンスふうの、中央を吹きぬきにして、二階は回廊のおもむきを見せ、階下正面の大理石のカウンターには、まさにソーダ・ファウンテンのおもかげが残っていた。

このなつかしい建物が、現在の近代ビルディングに改築されてしまったときは、どんなに私どもを嘆かせたことだろう。

戦前の東京の、銀座の……あの、ゆったりとした気分を濃厚にとどめていた旧パーラーの二階で、のんびりと昼飯を食べるたのしさは、何ともいえなかった。